

(リスクマネジメント)作業手順書 運転業務

会社名	中日本ハイウェイメテ名古屋株	施工ケース	主な設備、仕様機械	主な使用工具、器具	安全設備、保護具	使用材料	
作成日	2023.10.16	ケース1	大型車(セーフティカー・雪水車両)		保護帽、安全靴、安全フォッキ、		
改訂日		ケース2	作業車・巡回車		しらすだー安全棒		
作成者	細江 透和	ケース3					
必要資格等	ケース1 ケース2 ケース3	運転免許、職長教育講習			作業人員	2名	その他

可能性	1.ほとんど起きない (1年に1回程度)	2.たまに起きる (1年に1回程度)	3.かなり起きる (6ヶ月に1回程度)
	頻度率:1	頻度率:2	頻度率:3

軽微 (不特定災害)	重大 (休業災害)	極めて重大 (死亡・障害)
危険度:1	危険度:2	危険度:3

評価	対策変更の 必要なし	対策が必要	即座に対策 が必要
	1~2	3~4	5~9

作業工程	施工 ケース	No	単位作業とその主な手順	危険有害要因(予測される災害・事故) (品質、トラブルも含む)	評価 可能性 重大性	危険有害要因低減対策	誰が 点検・確認	対策後		参考図(別紙も可)
								可能性	重大性	
準備作業	共通	1	新入場者のフォローをする。	現場、施工方法等について十分な知識を有していない。	2 2 4	新入場者教育の受講	職長	1 2 2	2022.1.24事故参照	
		2	健康状態を確認する。	風邪、飲酒等により正常判断ができない。	2 1 2	体調の確認、アルコールチェックを行う。	職長	1 1 1		
		3	服装、保安用具の点検をする。	自発光チョッキの接続がある。からまんでの音が鳴らない。	2 2 4	規制員に、事前点検を実施させる。	全員	1 2 2		
		4	朝礼、KMミーティングを行う。	漠然と現場に入り事故を起こす。	2 1 2	KMミーティングにて危険箇所を確認する。	全員	2 1 2		
		5	作業手順の確認をする。	各自の作業が分かっていないで、現場で不安全行動を起こす。	3 1 3	個人の作業内容、作業手順を確認する。	全員	2 1 2		
		6	車両点検、荷姿、プレートチェックをする。	積荷等が落下する。	2 2 4	車両点検、荷姿チェックを自主とメンテ職員にて行う。	全員	1 2 2		
		7	免許証の確認をする。	規制材の落下。	2 3 6	ラウンドなどをアオリより出さない。ロープによる養生。	全員	1 3 3		
		8	移動時のハザードマップ経路確認をする。	業務用プレートの不正使用。	2 1 2	プレートチェックを自主とメンテ職員にて行う。	職長	1 1 1		
移動	共通	1	交通ルールを守り運転する。	人身、物損事故。携帯電話使用。シートベルト。あおり運転。	2 3 6	nexcoの一員であることを自覚して運転する。ドライブレコーダーの正常に動く確認する。	運転手	1 3 3	2022.7.19事故参照 2022.2.21事故参照 2021.9.13事故参照 2022.6.7事故参照 2022.2.5事故参照 2023.6.26事故参照 2022.2.6事故参照 2023.9.29事故参照	
		2	高速道路に入る前には、プレートを確認しておく。	プレート区域外使用。	2 1 2	車両点検時、荷姿チェック時に確認しておく。	全員	1 1 1		
		3	右左折や合流時、車両が来てないか目視で確認する。	死角による事故。	2 3 5	●一旦停止表示の無い交差点や信号の無い交差点については必ず一時停止し進入する。 ●運転手、助手共に左右の目視確認を実施する。	全員	1 2 2		
		4	検留作業時に追越に移動する場合の目視確認	追越にいる車両と接触事故。	2 2 4	後方車両からの合流確認後、一定の間隔を確保した状態で車線変更を実施する。	運転手	2 2 2		
		5	内輪差+外輪差を考慮運転する。	ハンドルの早く切り断事故。	3 2 5	●ゆっくりと曲がりサイドミラーで後輪に注意しながら走る。 ●周囲の安全確認してから発進する。	運転手	2 2 2		
		6	軌道、雪、泥等によってから運転する。	ベタルに当たったが乗り操作ミス。	2 1 4	軌道やベタルについている雪などは必ず払ってから乗車する。	運転手	2 1 2		
		7	後進時にサイドミラー、目視、バックモニター等で後方確認	後方確認不足で後進事故。	2 2 4	乗車する前に周囲の安全確認をする。	運転手	2 2 2		
		8	適切な場所に駐車する。	通行者の邪魔になる。無関係な場所に駐車し接触事故。	1 2 3	駐車マスの無い場所には駐車しない。	全員	2 1 2		
		9	SAPA等での車両の駐車	後退時に一般通行者、駐車車両、道路施設物に接触する。		後退誘導の方法は以下のとおりとする 【事前準備】 ●バックする前に運転手と助手で車両周囲の障害物などを確認のうえ、見て欲しいポイントを打ち合わせる ●誘導、停止の合図について打ち合わせる 【誘導開始準備】 ●運転手は合図が聞こえるように窓を開ける ●バック準備完了を助手に伝える ●助手は車両後方に立ちす。必ずミラーから見える右側方とする。なおあらかじめ見て欲しいポイントを決めた場合(例えば左側障害物)には運転手に立ち位置を伝える 【バック開始】 ●助手の合図でバックを開始、バックスピードはすぐに止まれるゆっくりとする ●バックの時は右サイドミラーでの確認の他、左バックミラーやバックカメラ映像を合わせて確認し障害物等の把握に努める ●運転手は合図がわからなかったりバックカメラ映像に障害物等を見つけた場合など異常を感じた場合は、速く一旦停止のうえ障害物を確認する ●ハザードをつけ後方車両に渋滞告知する。	誘導員 運転手	1 2 2		誘導教育で決まった文言に修正。
		10	渋滞発生時の最後尾対応。	追突事故、船見運転、遅延運転。	2 3 5	●適切な車両距離を保つ。 ●ハザードをつけ後方車両に渋滞告知する。	運転手	2 3 3		2021.12.27事故参照 2022.8.31事故参照
11	キabin内にある荷物の転倒。	荷物を取られ前方不注意。	2 2 4	●荷物が落ちた時は車両が完全停止してから拾う。	運転手	2 2 2	2022.10.4事故参照			
12	雪水作業除雪中の路面状況の確認不足	縁石やガードレールにプラックが接触し損傷。	1 2 3	●作業前にミーティング等を行い経路確認や安全確認をする。	全員	1 1 1	2021.12.27事故参照(プラウ除雪)			
後片付け	共通	1	車両点検、プレートチェックをする。	業務用プレートの不正使用。	2 2 4	メンテ職員と業務プレートを確認して返却する。	全員	1 2 2	2021.6.10事故参照	
		2	作業車両離脱	通行車両との接触。	2 2 4	運転手は誘導員などとは動かない。	運転手	1 2 2		
		3	車両周囲の接触。	車両同士との接触。	2 1 3	車両の移動は必ず誘導員の指示に従う。	全員	1 1 1		
		4	燃料の確認をする。	燃料不足や緊急発出時に燃料が無くなる。	2 1 3	燃料メーターが半分を切っていたら必ず補充する。	全員	2 1 2		
		5	キabin内の清掃をする。	次回使用する人が必要道具を持って行ってしまう。	1 1 2	車両変更等があっても問題ないよう片付けをしっかりと行う。	全員	1 1 1		
		6	車両周囲の確認をする。	次回出発時に異常があり出発出来ない場合がある。	1 2 3	車両停車後周辺を一回りして異常が無いか確認する。	全員	2 1 2		
		7	停止時、ギアをNにしているか確認。	Nでないときにクラッチを上げ、その反動で車両が後退し周囲の物に接触。	1 1 2	周囲の距離が近くないよう余裕をもって駐車する。	全員	1 2 2		
共通事項			(1) 誘導作業開始の上流側での注意喚起等による安全対策の徹底！ ○1人作業は極力回避する。作業時に一人となる場合は、安全な場所に待避する。 ・心を奪われない場合は保安員の監視の下で実施。 ○交通監視員(交通誘導員)を必ず配置する。 ・緊急時の合図や避難場所も確認 ○通行車線側での作業は原則的に行わない。 ・心を奪われない場合は保安員の監視の下で実施。 (2) 誘導停止車両の右側先行車線側での作業の禁止！ 下記①~④の内、いずれかの対応を実施。 ①青空アオリ部へのアオリランプの設置(社有車対応済み) ②車両右側フックへのカラビナ付ロープの固定 ③リース車等においてはロープ固定による取付(金具等未対応車両) ④直近の休憩施設や連絡等施設等の安全な場所にてシート、ネット掛けの確認。 (3) 車両への乗降は、供用車線の反対側から乗降！ ○誘導車等で供用車線の反対側からの乗降が困難な車両は除くものとする。 ○心を奪われない場合は保安員の監視の下で実施。 ・降車時は監視員が先に供用車線の反対側から降車し、乗車時は監視員が最後供用車線の反対側から乗込む。 (4) 車両進入時の安全対策(下記①~④のうち、もしくは両方) ○大型車両(搬送機・搬送機)の配置 作業現場より20~40mの位置に配置(現場にあわせて移動) ○とまるくん、とまるゾウの配置 作業現場より60mの位置に配置(作業現場が狭くときは、とまるゾウも現場にあわせて移動する。)							